

スガレ追ひ

スガレ追ひ

井伏鱒二



スガレ追ひ

昭和五十二年三月十日第一刷發行

著者 井 伏 鱒 二

發行者 井 上 達 三

發行所

株式
會社

筑 摩 書 房

東京都千代田區神田小川町二ノ八

郵便番號 一〇一―一九一

電話 東京(二九一)七六五一

振替 東京六十四一―二三

印刷 株式會社 精 興 社

製本 牧製本印刷株式會社

©井伏鱒二 一九七七

ス
ガ
レ
追
ひ

目
次

好きな詩

蟻地獄

炬燵の話

渡し舟

湖水の鮎

軍歌「戦友」

備前牛窓

問合はせの手紙二通

楯の會事務所のこと

三

二〇

一六

三

二六

一六

四

五

二〇

開高健

一〇七

裕三彩亭

一一〇

桂又三郎

一一六

牧野信一の文學碑

一二三

角川源義句集

一二七

古田晁

一四三

盤無し將棋

一四八

スガレ追ひ

一五三

隨筆
スガレ追ひ

好きな詩

「雪」——四歳か五歳の太郎次郎が青い鳥を探しあぐね、疲れきつて寢所で眠つてゐる。ところが青い鳥は、いつの間にか圍爐裏端に来て泊つてゐる。こんな説明は蛇足だが、ともかくこの詩は、今、しんしんと雪を降りつもらせてゐる。

「鹿」——三好達治は動植物のことに精しかつた。蛇の幼生は溪流で育ち、羽化した雄は草花をさがし、雌の方は人畜に向つて飛んで行く。この詩の蛇は羽化したばかりの初々しいやつだらう。溪流の方から風を間切りながら、一匹の鹿に向つて飛んで行く。その鹿は大きな角を生やし、朝のうちだといふのにじつと坐つてゐる。ボスの鹿だから、餌を探す一族の見張番をしてゐるのだらう。いつか三好君は、この詩は山羊

を見て書いたと云つた。さうだとすれば、動物學と文學概論と詩魂との三つの協力で山羊を鹿にすることが出来たわけだ。

「落葉松」——私は愛誦詩を擧げると云はれたら、明治大正の詩人のものでは即座に「落葉松」を擧げる。自分の好き嫌ひで云ふのだが、青少年のころ愛誦した詩の數が次第に減つて行くなかで、北原白秋のものには愛着を持つてゐる。以前からの情性とは思はない。この詩は今だに私を引きつける。

雪

三好達治

太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ。

次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪ふりつむ。

鹿

午前の森に 鹿が坐つてゐる

その背中に その角の影

微風を聞^きぎつて 蛇が一匹飛んでくる

遙かな谿川を聴いてゐる その耳もとに

落葉松

北原白秋

一

からまつの林を過ぎて、

からまつをしみじみと見き。

からまつはさびしかりけり。
たびゆくはさびしかりけり。

二

からまつの林を出でて、
からまつの林に入りぬ。
からまつの林に入りて、
また細く道はつづけり。

三

からまつの林の奥も
わが通る道はありけり。
霧雨きりさめのかかる道なり。

山風のかよふ道なり。

四

からまつの林の道は

われのみか、ひともかよひぬ。

ほそぼそと通ふ道なり。

さびさびといそぐ道なり。

五

からまつの林を過ぎて、

ゆゑしらず歩みひそめつ。

からまつはさびしかりけり。

からまつとささやきにけり。

六

からまつの林を出でて、

浅間嶺^{あさまね}にけぶり立つ見つ。

浅間嶺にけぶり立つ見つ。

からまつのまたそのうへに。

七

からまつの林の雨は

さびしけどいよよしづけし。

かんこ鳥鳴けるのみなる。

からまつの濡るるのみなる。

八

世の中よ、あはれなりけり。
常なけどうれしかりけり。

山川に山がはの音、

からまつにからまつのかぜ。

(昭和五一・一「俳句とエッセイ」)

蟻地獄

昨日、「コンコンの唄」といふ題で蟻地獄のことを詩のやうな形で書いた。その後で荻窪教會通りの鮎屋へ行つた。

鮎屋の親爺に、「お前さんの郷里では、蟻地獄のことを何と云つてゐるかね。」と訊くと、「あの可笑しな蟲ですか。私の子供のときには、ガイコツと云つてました。」と云つた。親爺は新潟縣の出身で、民謡で「ヨネヤマサンから雲が出た、今に夕立が來るやらピツカラチャツカラ……」と歌ふ、あのヨネヤマサンの見える村の生れださうだ。

今日、植木屋が來たので訊くと、「この邊ぢやあ、あれはアトサリママコと云つて

たね。ひよつこり覗いて蟻を食ふ、頓狂な蟲だな。」と云つた。

この植木屋は荻窪の生れで、年は私より二つか三つ上である。昭和二年に私のうちの生垣を拵へてくれ、それ以來の知りあひで、戦後、新しくまた生垣を仕立ててくれた。土着のアバッチと云はれてゐる老人だから、この邊では普通アトサリママコと云つたのだらう。

廣辭苑を見ると、アトビサリ、アトシザリ、スリバチムシと云ふと云つてある。私の郷里の備後加茂村ではコンコンと云つてゐた。その由來は不明だが、「コンコン出やれ、鬼出やれ」といふ唄のやうな既成語もあつた。古い唄の文句の殘缺であつたかもしれない。「出やれ」は「出なさい」である。

コンコンの唄

小學校へあがる前のこと――